

B.A. (Honours) Examination 2019
Semester – VI
Japanese
Paper- JP-16(H16)
(Creative Writing and Rapid Reading)

Time: 3 Hours

Full Marks: 40

Questions are of the value as indicated in the margin.

問題 I 次の中からどれか 3 つ選んで、答えなさい。 7X3=21

- a. 東京では、なぜ高層ビルが増えていますか。そして東京の地下はどのように利用されていますか。
- b. ベビーシッターとはどういう意味ですか。なぜベビーシッターが最近増えたのですか。
- c. どうして人手不足で会社が倒産するのですか。どんな規模の企業が人手不足倒産に追い込まれていますか。
- d. 週休 2 日制になってサラリーマンの仕事はどうになりましたか。

問題 II 次からどれか三つについて説明しなさい。 3X3=9

インスタントラーメン 宅配便 たんす預金 働き蜂

問題 III 次の文を読んで、後の質問に答えなさい。 10

最近、様々な分野で活躍する女性の姿が目につく。女性主導の社会の中で差別され続けてきた女性たちが、社会的に重要な役割をうけ持つようになったのだ。「女性の役割は出産と育児、家事」という性別役割分担に同意するひとは、いまでも 43%と多い。特に男性や年齢の高い人たちにこの意識が強い。

反面、若いカップルの中には、夫も育児、家事などを分担する人が増えている。日曜日など、スーパーマーケットで、わかい夫婦が一緒に買い物をする光景も、「腰掛け」ととらえるのではなく、経済的な自立をめざし、キャリアを積むことが大切だと考える女性も多い。有能で専門職や管理職についている女性を、よく「キャリアウーマン」と呼ぶ。今後も、

キャリアウーマンをめざす女性はどんどん増えていこう。これらの社会の動きに、文部省もやっと重い腰を上げた。今まで女子だけが必修だった中学・高校の家庭科が、1994年から男子にも課せられるようになる。

20年ほど前から、家庭科の先生たちは「家庭科は男子にも必要」と言い続けてきた。実現までに25年もかかったわけだ。まだまだこのペースでは、いくら女性の社会進出が目立つとはいえ、差別がなくなったとは言えない。高い教育を受けた女性の動続年数が長くなり、女性の管理職も増えている。しかし、35-59才の男性の5人に1人が役職についているのに対して、同年代の女性は38人に1人しか役職についていない。

働く意欲のある女性にとって、たしかに日本の社会は住む安くなっている。しかし、めに見えない差別は、まだいたるところに残っている。

- あ) 女性の差別役割分担と言われるものを3つ挙げなさい。 3
- い) 「職業を腰掛けととらえる」とはどういう意味ですか。 3
- う) 「キャリアウーマン」てはどういう意味ですか。 2
- え) 「女性に対する目に見えない差別」の例を2つ挙げなさい。 2
